

CDB シンポジウム 2009 “Shape and Polarity”を開催

平成 21 年 3 月 26 日

平成 21 年 3 月 23 日～25 日の 3 日間に渡り、CDB シンポジウム 2009 が開催された。この CDB シンポジウムは発生と再生の生物学に携わる研究者の交流を深め、更なる研究の発展を計ることを目的とし、2003 年より開催されている。7 回目となる今年は、CDB 竹市雅俊グループディレクター(高次構造形成研究グループ)、松崎文雄グループディレクター(非対称細胞研究グループ)、澤斉チームリーダー(細胞運命研究チーム)、及びドイツ Max Planck 研究所 Carl-Philipp Heisenberg 博士がオーガナイザーをつとめ、“Shape and Polarity”「細胞の形と極性」をテーマに活発な議論が行われた。



細胞の極性は生物の発生、器官形成に非常に重要な要素である。シンポジウムでは、細胞がどのように極性化するのか、極性化がどのような役割を持っているのか、どのように極性化が協調して起こるのか、極性細胞の再配列がどのように細胞集団を組織してゆくのか、などを中心に講演、ポスター発表が行われた。演題名や講演者など更に詳しい情報は CDB シンポジウム 2009 ウェブサイト <http://www.cdb.riken.jp/sympo2009/>に掲載されている。

来年の CDB シンポジウム 2010 は“Frontiers in Organogenesis”をテーマに平成 22 年 3 月 23 日～25 日に開催される。